

女性における菓子類の嗜好と意識

第2報 香川と長野の女子学生の比較

歳森 茂・岸 純子・浜田重遠*

大多数の女性にとって菓子類は重要な嗜好品であり、果物と共に一二の位置を争っている。その嗜好は個人によってかなり異なるものの平均的には年代差によって大きな相違があることを1981年の調査¹⁾によって知った。今回はそれに引き続いての1982年の調査であるが、冬がやや寒く冬期のやや長い長野と西南暖地に属し冬期のやや温暖な香川を選び、双方の学生を比較対照した。そして風土の相違が菓子類の嗜好にどの程度影響するかをみるのを主目的とした。その調査大要を報告するものである。

調査方法と対象

長野市にある私立長野女子短大の学生（長野と略称）の1年99名、同2年85名と高松市にある香川県立保育専門学院の学生（保専と略称）の99名及び香川大学学生（香大と略称）120名を対象とした。その年齢は表1に示すように長野では1年集団と2年集団の間に約1年の年齢差がみられるが、長野2年と保専及び香大の間には平均的にはほとんど年齢差がないように思われた。自家の職業は表2のようであるが、長野が農家がやや多く香大が公務員がやや多い他は

表1 生 れ 年

	昭34	昭35	昭36	昭37	昭38	昭39	無回答	計
長野1年	0	0	0	1	58	40	0	99
長野2年	1	0	2	51	31	0	0	85
保 専	0	0	2	68	29	0	0	99
香 大	0	8	40	54	17	0	1	120

注：長野女子短大学生—長野，香川保育専門学院学生—保専，香川大学学生—香大

* 長野女子短大

表2 自家の職業

	専業又は兼業の農家	公務員	教員	医師	会社員	商業関係	その他	無回答	有効回答	計
長野	49(27.5)	20(11.2)	4(2.2)	0	56(31.5)	27(15.2)	22(12.4)	6	178	184
保専	18(20.2)	6(6.7)	3(3.4)	0	34(38.2)	12(13.5)	16(18.0)	10	89	99
香大	14(12.1)	22(19.0)	8(6.9)	0	39(33.6)	17(14.6)	16(13.8)	4	116	120

注：()内の数字は、有効回答を100.0として、それに対する割合である。以下同様

顕著な差はみられなかった。長野では1980年の調査よりも農家率が著しく低下していた。そして、うすら寒くなった頃が菓子に対する関心と欲求が高まるという想定から、アンケートは1982年11月～12月に書いてもらった。アンケートの設問の内容は次に示す通りである。

菓子類の嗜好と利用に関する意識調査（女性）

菓子類は女性にとって果物と一、二を争う嗜好品と思われれます。反面、肥満や成人病などをもたらす一大要因ともいわれます。そこで、今回は、長野県と香川県に在住する女子学生を対象に、菓子一般に対する意識と菓子に対する気持ち・御意見などをお聞かせ頂き、健康教育上の資料としたいと思います。ごめんどうでしょうか宜しく御協力のほど御願いたします。

1982年 香川大学教育学部 技術科研究室
保健体育学研究室

（該当する項目に○または記入をして下さい。以下同様です。）

記入年月日 昭和.....年.....月.....日

- (1) 学年（第.....学年）、昭和.....年生まれ
- (2) 自分の出身地（.....県）
- (3) 現在の居住地（.....県）
- (4) 自家の職業（専業または兼業の農家、公務員、教員、医師、会社員、商業関係、その他）

- (1) あなたは、菓子と果物とではどちらがお好きですか。
（菓子、果物、どちらも同じくらい好き、どちらも好きでない。）
- (2) あなたは、和菓子と洋菓子とではどちらがお好きですか。
（和菓子、洋菓子、どちらも同じくらい好き、どちらも好きでない。）
- (3) 前項で、洋菓子に○をつけた人は、下のカッコの中に、その理由を書いて下さい。
（.....）

(4) 菓子についての好みの程度：

- ア. 菓子はとても好きである。
- イ. 菓子はどちらかといえば好きである。
- ウ. 菓子については普通なみだと思ふ。
- エ. 菓子はどちらかといえばきらいである。
- オ. 菓子は全くきらいである。

(5) 菓子についての利用の程度：

- ア. 菓子は実によく食べるほうである。
- イ. 菓子はどちらかといえばよく食べるほうである。
- ウ. 菓子を食べる量は普通なみだと思ふ。
- エ. 菓子はどちらかといえばあまり食べていない。
- オ. 菓子は全く食べていない。

(6) 次のカッコの中の菓子類のうち、この1年間に、あなたが1回以上食べたと思う菓子の番号に○をつけて下さい。

- ① おかき、あられ類。 ② せんべい類。 ③ 水ようかん。 ④ 練菓子類（ようかん、ういろう、すはまなど）。 ⑤ アイスクリーム、アイスキャンデー。 ⑥ もなかなど。 ⑦ あん入り生菓子類（栗まんじゅう、かまど、おへそ、お祝用まんじゅう、小豆入りまんじゅう、その他）。 ⑧ 長野のいわゆる「おやき類」、カレーやきや大版やきなど。 ⑨ 干菓子類（らくがん、カリントウなど）。 ⑩ あん入りもち。 ⑪ ごへいもち。 ⑫ おはぎ。 ⑬ だんご類。 ⑭ カステラやスポンジケーキ類、愛媛のタルトなど。 ⑮ ショートケーキやデコレーションケーキ。 ⑯ ババロア。 ⑰ プリン。 ⑱ チーズケーキ。 ⑲ チョコレート類。 ⑳ ガム類。 ㉑ あめ類（キャラメルも含む）。 ㉒ あめのようにセロファンに包んだ固いゼリーや、みずずあめなど。 ㉓ 各種スナック菓子（ポテト、コーン、おさつ、チップバナナ等）。 ㉔ 豆菓子類（ビーナツ、アーモンドを含む、ひょうげ豆等）。 ㉕ クッキー類。 ㉖ コーヒーゼリーやワインゼリー類。 ㉗ パイ。 ㉘ バームクーヘン。 ㉙ ドーナツ類（ミスタードーナツを含む）。 ㉚ その他の洋菓子。 ㉛ 水あめ。 ㉜ はちみつ。 ㉝ 果物の砂糖煮（あんず、りんご、干ぶどうなど）。 ㉞ 果物のシロップづけ（みかん、かりん、パイナップル等）。 ㉟ 干果物（干柿、干りんご、干ぶどう、干あんず、干バナナ等）。 ㊱ 栗きんとん、いもきんとん、豆きんとん等。 ㊲ くるみやくるみを使った菓子。 ㊳ 焼栗又は天津甘栗。 ㊴ さつまいも類（やきいも、ふかしいも、大学いも等）。 ㊵ トッカン（長野）又はボンボン菓子、パットライス（香川）。 ㊶ おこし類（あわおこしなど）。 ㊷ 干いも。 ㊸ ヨーグルト。 ㊹ チーズ。

(7) 上のカッコの中の菓子類のうち、あなたが最もよく食べたと思うものを、最高7つまでの範囲で、次の（ ）の中に入れて下さい。

- (.....)
- (8) 上の(6)や(7)にあげた菓子のうち、あなたの好きな菓子の下へ、アンダーラインを引いて下さい。
- (9) あなたのきれいな菓子があれば、その名をあげて下さい。
- (.....)
- (10) 自分が「買ってまで欲しくないが、そこへあれば食べないこともない菓子」があれば、その名をあげて下さい。
- (.....)
- (11) ほぼ3年前、あなたが高校生のころ、あなたが最もよく食べたと思う菓子を、最高7つまでの範囲で、次の()に書いて下さい。
- (.....)
- (12) 上の7項と11項は嗜好の経年変化の有無を示します。自分で比べてみて、著しく変化している人があれば、その間の事情または理由を次の()の中に書いて下さい。
- (.....)

(御協力していただきどうもありがとうございました。)

調 査 結 果

(1) 菓子と果物の比較

菓子と果物を比較するのは答えにくい問いであるが、あえて行ってみたところ、いずれも果物のほうが上位であった。特に長野2年では果物のほうを上位とする率が高かった。(表3)前年の調査では若年層に差がなく、成人層に差が大きかった。

表3 あなたは、菓子と果物とではどちらがお好きですか

	菓 子	果 物	どちらも同じ くらい好き	どちらも好 きでない	計
長野1年	12(12.1)	27(27.3)	60(60.6)	0	99(100.0)
2年	8(9.4)	28(32.9)	49(57.7)	0	85(100.0)
保 専	15(15.1)	17(17.2)	67(67.7)	0	96(100.0)
香 大	16(13.3)	23(19.2)	81(67.5)	0	120(100.0)

(2) 和菓子と洋菓子の好み

和菓子と洋菓子を比べてどちらが好きかを問うと、表4のようにいずれも洋

表4 あなたは、和菓子と洋菓子とではどちらがお好きですか

	和菓子	洋菓子	どちらも同じくらい好き	どちらも好きでない	計
長野	7(3.8)	116(63.0)	53(28.8)	5(2.7)	184(100.0)
保専	2(2.0)	51(51.5)	45(45.5)	1(1.0)	99(100.0)
香大	10(8.3)	61(50.8)	47(39.2)	2(1.7)	120(100.0)

菓子のほうに軍配をあげている。これは前年と同様であった。そして洋菓子を好む理由について聞いてみたところ、各グループとも多くの意見が出たが、それをまとめると次のようである。

即ち、(ア) 洋菓子はさっぱりした甘さがあってひつこくなく、口あたりがいい。(イ) 和菓子に比べて重量感がなく、沢山食べられる(又は食べられる気がする)。(ウ) 和菓子は甘すぎるものが多い、お茶が要るが、洋菓子はそのまま食べられるものが多い。(エ) 幼い頃から和菓子にあまり接していない又は平素和菓子に接する機会が少ないのでなじみがうすい。

である。

洋菓子のすべてではないであろうが、ある有力メーカーは以前に比べて砂糖使用量を30%減じている³⁾といい、現代の洋菓子の傾向は体を動かすことが少くて糖분을生理的に多く要求しない現代人の要望に、こたえているといえよう。甘さ即ち多糖そしてこれは肥満につながると本能的にきらわれているようである。

(3) 菓子についての好みの程度

表5 菓子についての好みの程度

	とても好き	どちらかといえば好き	普通なみ	どちらかといえばきらい	全くきらい	無回答	有効回答	計	菓子嗜好指数
長野	63(34.2)	47(25.5)	66(35.9)	8(4.4)	0	0	184	184	0.90
保専	41(41.8)	32(32.7)	24(24.5)	1(1.0)	0	1	98	99	1.14
香大	65(54.6)	23(19.4)	28(23.5)	3(2.5)	0	1	119	120	1.26
保専+香大	106(48.9)	55(25.3)	52(24.0)	4(1.8)	0	2	217	219	1.20

「菓子嗜好指数(仮称)」は、「とても好きである」を+2、「どちらかといえば好きである」を+1、「普通なみだと思う」を0、「どちらかといえばきらい」を-1、「全くきらい」を-2と評価し、各回答者の評点をグループごとに平均した値である。

菓子についての好みの程度を聞き、それを表5のように菓子嗜好指数(仮称)で表わしてみた。この数字は香大については前年とほぼ同様であった。そして長野のほうが香川より低い値を示した。これは菓子をどれだけ好んでいるかという意識の自己判断であるが、長野2年が果物を菓子より上位とするものが多いことと合せて面白い現象と思われる。

(4) 菓子についての利用の程度

次に、菓子をどの程度利用しているかの意識を調べたところ、表6のようになった。ここでも長野は香川より低い値を示していた。

表6 菓子についての利用の程度

	実によく食べるほうである	どちらかといえはよく食べるほうである	普通なみだと思ふ	どちらかといえはあまり食べていない	全く食べていない	無回答	有効回答	計	菓子利用意識指数
長野1年	15(15.2)	32(32.3)	38(38.4)	14(14.1)	0	0	99	99	0.48
2年	13(15.5)	27(32.1)	37(44.1)	7(8.3)	0	1	84	85	0.55
保 専	22(22.2)	29(29.3)	40(40.4)	8(8.1)	0	0	99	99	0.66
香 大	22(18.3)	46(38.3)	41(34.2)	11(9.2)	0	0	120	120	0.66

「菓子利用意識指数(仮称)」は、「実によく食べるほうである」を+2、「どちらかといえはよく食べるほうである」を+1、「普通なみだと思ふ」を0、「どちらかといえはあまり食べていない」を-1と評価し、各回答者の評点をグループごとに平均した値である。

(5) 菓子類の種類別利用割合

菓子類を広意に解釈してその種類を前年の31種類より44種類にふやして、この1年間に食べたと思う菓子にマルをつけてもらい、それを種類別利用割合として表示したのが表7である。これは食べた量ではなく一回でも利用したものの割合が出る。香大では前年と比べてみると、ほとんどの項目に差はないが、せんべい、干菓子類、豆菓子類において昨年より高い値を示している。即ちせんべいが76に対し83、干菓子類が25に対し60、豆菓子類が58に対し88である。これは後二者の場合、今回のアンケートにおいて、干菓子類にカレントウ、豆菓子類にピーナツ、アーモンドを含めたため利用割合が高くなったものと思われる。次に、長野1年と2年の比較では2年のほうが水ようかん、練菓子類、

表7 この1年間に食べたと思う菓子の種類別利用割合(単位:%)

	お か き ・ あ ら れ 類	せ ん べ い 類	水 よ う か ん 類	練 菓 子 類	ア イ ス ク リ ー ム 類	も な か な ど	あ ん 入 り の 生 菓 子 類	お や き な ど	干 菓 子 類	あ ん 入 り も ち	ご へ い も ち	お は ぎ	だ ん ご 類	カ ス テ ラ 類	シ ョ ー ト ケ ー キ 類
長野 1年	82	95	48	53	100	41	64	81	53	55	21	67	86	96	99
2年	82	93	38	41	98	38	72	80	52	42	15	66	86	93	96
保 専	93	91	48	53	100	48	90	39	57	82	2	75	71	99	99
香 大	96	93	53	68	99	56	91	31	60	85	9	87	80	96	98
長野 計	82	94	43	47	99	40	67	80	52	49	18	66	86	95	98
香大+保専	95	92	51	61	100	53	90	35	58	84	6	81	76	97	98
	バ バ ロ ア	プ リ ン	チ ー ズ ケ ー キ	チ ョ コ レ ー ト 類	ガ ム 類	あ め 類	ゼ リー ・ み ず ず あ め	各 種 ス ナ ッ ク 菓 子	豆 菓 子 類	ク ッ キ ー 類	コ ー ヒ ー ゼ リー な ど	パ イ	パ ー ム ク ー ヘ ン	ド ー ナ ツ 類	そ の 他 洋 菓 子
長野 1年	47	89	77	95	88	97	20	97	81	96	84	67	68	87	51
2年	47	89	86	99	76	94	15	93	75	99	76	60	61	93	47
保 専	42	95	86	98	87	98	34	98	85	100	72	72	72	99	67
香 大	48	94	96	98	76	94	36	98	88	99	83	90	76	97	57
長野 計	47	89	81	97	83	96	18	95	78	97	80	64	65	90	49
香大+保専	46	95	91	98	81	96	35	98	86	100	78	82	74	98	61
	水 あ め	は ち み つ	果 物 の 砂 糖 煮	果 物 の シ ロ ッ プ づ け	干 果 物	き ん と ん	く る み や く る み 菓 子	甘 栗	さ つ ま い も 類	パ ッ ト ラ イ ス	お こ し 類	干 い も	ヨ ー グ ル ト	チ ー ズ	人 数
長野 1年	8	30	40	64	36	41	48	54	88	22	28	24	94	80	99
2年	9	27	31	72	34	44	60	59	87	25	31	21	96	81	85
保 専	19	45	45	76	45	73	25	73	100	62	56	12	96	92	99
香 大	10	47	35	61	36	51	31	73	94	53	48	15	98	92	120
長野 計	9	29	36	67	35	42	54	56	88	23	29	23	95	80	184
香大+保専	14	46	40	68	40	61	28	73	97	57	52	14	97	92	219

あん入りもちの利用度がやや低く、チーズケーキの利用度がやや高い。そして長野と香川を比較すると地域差が顕著であることが分る。即ち「おやき類、カレーやきや大版やき」では長野80に対し、香川35、ごへいもち18に香川6である。

又、くるみやくるみ菓子が長野54に対し香川28である。長野は日本で有数のくるみ産地であり、くるみの利用が古くから定着しているのに対し、香川県等西南暖地には産せずなじみがうすいからである。反対に甘栗は長野56に対し香川73の高い値を示している。甘栗材料は主として輸入ものであるため、くるみの多い長野ではくるみの消費に影響されるためであろう。あわおこしを始め関西に多いおこし類は香川が52と高く長野では29の低い値である。又、さつまいも類の利用度が香川の方が高いのは、香川を始め四国はさつまいもを多く産し冬季貯蔵が容易なため冬季の値段が長野より安いことが想定されそれが利用率につながるであろう。その他では、おかき、あられ類、練菓子類、もなか、あん入りの生菓子類、あん入りもち、おはぎ、ゼリー・みずずあめ、パイ、きんとん、パットライス、チーズ等において長野より香川の方が高い値を示した。

(6) この1年間に最もよく食べたと思う菓子

次に、この1年間に最もよく食べたと思う菓子について各人に最高7つまでの範囲でマークしてもらった。それをグループ別に調べたところ表8のような結果になった。保専、香大を昨年と比較した場合、共にスナック菓子の位置が下り、チョコレート類の位置が上っている。保専では第一位スナック菓子、第二位アイスクリーム類であったのが逆転している。全体を通じてみると長野、香川ともアイスクリーム類が第一位であり、チョコレート類が第二位となっている。そして、スナック菓子が平均的に第三位となっている。また長野では1年、2年ともせんべい類の位置が高く第四位を占めているのが特徴的であり、反対に香川ではせんべい類の位置は著しく低い。又、前年の調査では成人層の第一位はおかき、あられ類であってアイスクリーム類は第三位又は第四位を占めており、保専、香大では反対におかき、あられ類が第五位又は第六位であ

表8 この1年間に最もよく食べたと思う菓子

長野 1 年				長野 2 年			
順位	種 類	得票	得票率%	順位	種 類	得票	得票率%
1	アイスクリーム類	87	88	1	アイスクリーム類	71	84
2	チョコレート類	60	61	2	チョコレート類	61	72
3	スナック菓子	58	59	3	スナック菓子	53	62
4	せんべい類	46	47	4	せんべい類	45	53
5	クッキー類	45	46	5	クッキー類	39	46
6	ヨーグルト	33	33	6	ショートケーキ類	36	42
7	あめ類	32	32	7	ヨーグルト	35	41
8	ショートケーキ類	31	31	8	チーズケーキ類	19	22
9	コーヒーゼリー	23	23	9	あめ類	18	21
回答人数	99			回答人数	85		
保 専				香 大			
順位	種 類	得票	得票率%	順位	種 類	得票	得票率%
1	アイスクリーム類	74	76	1	アイスクリーム類	86	72
2	スナック菓子	67	68	2	チョコレート類	82	68
3	チョコレート類	66	67	3	スナック菓子	76	63
4	クッキー類	58	59	4	クッキー類	75	63
5	ヨーグルト	50	51	5	ヨーグルト	63	53
6	あめ類	36	37	6	プリン	37	31
7	プリン	30	31	7	ショートケーキ類	35	29
8	ショートケーキ類	28	29	8	あめ類	27	23
9	おかき・あられ類	27	28	9	おかき・あられ類	26	22
回答人数	98			回答人数	120		

た。今回はおかき、あられ類が更に低下し共に第九位を占めている。

(7) 好きな菓子について

最もよく食べる菓子が最も好きな菓子であることは必ずしもいえないという観点から、各人に好きな菓子を示してもらったところ表9のような状態を示した。即ち表8で第六～八位にあったショートケーキ類がほとんどのグループで第一位を占めている。好きな菓子であって利用度が低いのは価格の問題であろう。そして最もよく食べたと思う菓子の中で第二位であったチョコレート類が

表9 好きな菓子

長野 1 年			長野 2 年			長野 計		
順位	種 類	得票	順位	種 類	得票	順位	種 類	得票
1	ショートケーキ類	55	1	アイスクリーム類	56	1	ショートケーキ類	107
2	アイスクリーム類	51	2	ショートケーキ類	52	2	アイスクリーム類	107
3	チョコレート類	45	3	チョコレート類	45	3	チョコレート類	90
4	スナック菓子	38	4	ヨーグルト	44	4	ヨーグルト	80
5	チーズケーキ	37	5	スナック菓子	41	5	スナック菓子	79
6	ヨーグルト	36	6	チーズケーキ	49	6	チーズケーキ	77
7	クッキー類	34	7	せんべい類	37	7	クッキー類	66
8	コーヒゼリー	30	8	クッキー類	32	8	せんべい類	63
9	プ リ ン	28	9	プ リ ン	27	9	プ リ ン	55
回答人数	96		回答人数	85		回答人数	181	
保 専			香 大			香大 + 保専		
順位	種 類	得票	順位	種 類	得票	順位	種 類	得票
1	ショートケーキ類	57	1	ショートケーキ類	75	1	ショートケーキ類	132
2	アイスクリーム類	54	2	チーズケーキ	73	2	チョコレート類	117
3	チョコレート類	50	3	チョコレート類	67	3	アイスクリーム類	116
4	ヨーグルト	49	4	アイスクリーム類	62	4	チーズケーキ	112
5	プ リ ン	43	5	クッキー類	60	5	ヨーグルト	109
6	スナック菓子	41	5	ヨーグルト	60	6	クッキー類	101
6	クッキー類	41	7	プ リ ン	57	7	プ リ ン	100
8	チーズケーキ	39	8	スナック菓子	42	8	スナック菓子	83
9	おかき・あられ類	28	9	バームクーヘン	37	9	バームクーヘン	51
回答人数	94		回答人数	111		回答人数	205	

各グループ共第三位に下っている。又、アイスクリーム類の位置は概して低下している。特に香大では表8で第一位にあったものが第四位に下っている。そして第三位であったスナック菓子が第四～八位に下っている。反対にチーズケーキの位置はいずれも上昇している。特に香大では第九位以下であったものが第二位にまで上っている。相当魅力的な存在と考えられる。

(8) きらいな菓子について

次に、きらいな菓子についてその種類をあげてもらった。(表10) これは好

表10 きらいな菓子

長野 1 年			長野 2 年			長野 計		
順位	種 類	得票	順位	種 類	得票	順位	種 類	得票
1	練菓子類	26	1	練菓子類	27	1	練菓子類	53
2	もなか	25	2	みすずあめ	26	2	もなか	48
3	あん入り生菓子類	17	3	もなか	23	3	みすずあめ	37
4	干果物	16	4	干菓子類	21	4	干果物	33
5	みすずあめ	11	5	干果物	17	5	あん入り生菓子類	30
6	ゼリ	10	6	あん入り生菓子類	13	6	ゼリ	26
回答人数	88		回答人数	82		回答人数	170	
保 専			香 大			香大 + 保専		
順位	種 類	得票	順位	種 類	得票	順位	種 類	得票
1	ゼリ	23	1	練菓子類	21	1	ゼリ	42
2	練菓子類	20	2	もなか	20	2	練菓子類	41
3	もなか	19	3	ゼリ	19	3	もなか	39
4	干果物	12	4	あん入り生菓子類	15	4	あん入り生菓子類	26
5	あん入り生菓子類	11	5	干菓子類	10	5	干果物	21
6	チーズ及びチーズの入ったもの	10	6	おこし類	9	6	おこし類	17
回答人数	82		回答人数	95		回答人数	177	

きな菓子に比べて著しく数が少ない。長野で約半数，香川で約1/3である。そして平均的にはいずれも練菓子類（ようかん，ういろう，すはまなど）が第一位であった。もなかも位置が高く，第二～第三位であった。みすずあめや堅いゼリも高い位置を占めていた。水分が少なく甘いもの又はねっとりしたものがきらわれていることが分る。

昔子供の好物の代表であったようかんやもなかがきらわれ者の上位にあるのは隔世の感がある。

（9） 高校生の頃最もよく食べたと思う菓子

最後に，ほぼ3年前，高校生の頃，最もよく食べたと思う菓子を各人に最高7つまでの範囲で選んでもらったところ，表11の結果を得た。又，著しく変化

表11 高校生の頃最もよく食べたと思う菓子

長 野 1 年			長 野 2 年		
順 位	種 類	得 票	順 位	種 類	得 票
1	アイスクリーム類	70	1	チョコレート類	61
2	各種スナック菓子	62	2	アイスクリーム類	60
3	チョコレート類	47	3	各種スナック菓子	50
4	あ め 類	35	4	せんべい類	38
5	せんべい類	34	5	クッキー類	33
6	クッキー類	33	6	ショートケーキ	23
7	ショートケーキ	28	7	あ め 類	21
8	ガ ム 類	19	8	ヨーグルト	18
9	ヨーグルト	18	9	プ リ ン	16
			9	ガ ム 類	16
回答人数	99		回答人数	85	
保 専			香 大		
順 位	種 類	得 票	順 位	種 類	得 票
1	各種スナック菓子	72	1	各種スナック菓子	67
2	アイスクリーム類	57	2	クッキー類	66
3	チョコレート類	55	3	チョコレート類	64
4	あ め 類	33	4	アイスクリーム類	60
5	クッキー類	29	5	おかき・あられ類	42
6	プ リ ン	26	6	ショートケーキ	32
7	ガ ム 類	25	7	プ リ ン	27
8	ショートケーキ	24	8	ヨーグルト	26
9	おかき・あられ類	22	9	あ め 類	21
回答人数	96		回答人数	119	

している人には、その間の事情又は理由を書いてもらった。そしてこれを表8と比較してみれば嗜好変化の有無が明らかである。特徴的なものにスナック菓子がある。即ち、長野2年を除いて、いずれもこの三年間にスナック菓子の位置が下落している。又、あめ類やガム類は平均的に下落しており、特に長野では著しい。個人的見解を基にすれば大多数の嗜好は変化していないようである。概して高校時代は安価で量の多いものを好んで食べていたが、大学生になって(バイト等もあって)金銭的余裕ができたためとか友人との付き合いのた

めとかでケーキ等やや高級な菓子を食べるようになっている。

考 察

長野と香川とではかなり気候風土が違うため菓子嗜好に顕著な差があるのではないかという想定は調査の結果砕かれた想いである。(5)項に挙げたように、わずかに「おやき類、カレーやきや大版やき」、くるみやくるみ菓子、ごへいもち、おこし類等で差がみられた程度であって女子学生一般の洋菓子嗜好の波は風土慣習をはねのける勢いであるように思われた。郷土菓子、伝統菓子に対する拒否意識はかなりのものであり、長野ではごへいもちは18%、くるみやくるみ菓子は54%の利用割合しかないと読みとれる。健康にいいと思われる干果物、干いもなどの利用割合は予想通り低かったが、前年と比較した場合保専、香大とも数字は上っている。即ち前年は「干柿」の項目であるが、保専31、香大16であるのが、今回の「干果物」では保専45、香大36に上昇している。又、「干いも」についても、前年16と5であるが今回は12と15である。前年の「グループ千羊」では「干いも」の利用割合が22であり、自然菓子的なものに対する意欲を更に高めて欲しいものと思われる。表7をみて、女子学生の菓子嗜好の巾の狭いことに驚いた人がいるが、香大について44種類の中の利用数を計算すると、利用数1～14のもの1.6%、15～19のもの4.2%、20～24のもの9.1%、25～29のもの21.7%、30～34のもの30.0%、31～39のもの26.7%、40以上6.7%となる。つまり、44種類中34種類までしか利用しない女子学生が全体の約67%に達するのであり、菓子の種類の利用の巾は狭い。偏食的であるといえるのではなからうか。これは前年においても同じ傾向であったし、現代女子学生の傾向として定着しているようである。

要 約

長野市にある私立長野女子短大の学生（長野と略称）の1年99名、同2年85名と高松市にある香川県立保育専門学院の学生（保専と略称）99名及び香川大学女子学生（香大と略称）120名を対象として菓子類に対する嗜好と意識をアンケート調査により比較した。アンケート時期は1982年11月～12月である。

1. 和菓子より洋菓子を好む傾向はいずれにおいても認められ、保専、香大では前年と同様であった。
2. この1年間に食べたと思う菓子の種類別利用割合を調べた。長野では香川県の女子学生より「おやき類、カレーやきや大版やき」、くるみやくるみ菓子、ごへいもち等の割合が高く、反対に香川は長野より甘栗、さつまいも類、おこし類の利用が高かった。その他では気候風土の差によるものは認められず、又、郷土菓子、伝統菓子の利用は洋菓子類に比べて極めて低かった。
3. この1年間に最もよく食べたと思う菓子についてみると、第1位はいずれもアイスクリーム類であり、第2位は平均的にチョコレート類、第3位は平均的にスナック菓子であった。また長野では第4位をせんべい類が占めるが、香川ではいずれもせんべい類の位置は極めて低かった。
4. 好きな菓子の第1位は、最もよく食べた菓子の中では第6～8位を占めるショートケーキ類であった。ただし長野2年はアイスクリーム類について第2位であった。この1年間に最もよく食べたと思う菓子の中では極めて低い位置にあったチーズケーキが好きな菓子の中では上昇し、特に香大では第2位を占めていた。
5. きらいな菓子については、練菓子類（ようかん、ういろう、すはまなど）が平均的に第1位であり、もなかや堅いゼリーがそれに次いだ。

文 献

- 1) 歳森茂・岸純子他3 (1982)：女性における菓子類の嗜好と意識（第1報），香川大学教育学部研究報告32(2)，103-112.
- 2) 歳森茂・浜田重遠 (1981)：夏期における嗜好的飲食物の利用に関する調査，香川大学教育学部研究報告31(1)，191.
- 3) 守屋健郎 (1983)：ニッポン新味覚地図，読売新聞社，207.
- 4) 締木信太郎 (1971)：菓子の文化史，光琳書院，144-155.
- 5) 別冊太陽，和菓子歳時記 (1981)，平凡社，5-126.
- 6) 内海安雄他3 (1977)：洋菓子全書，柴田書店，1-5.
- 7) 門林泰夫 (1979)：ヨーロッパのお菓子，主婦の友社，264-277.
- 8) 小野村正敏訳 (1981)：現代洋菓子全書，三洋出版貿易株式会社，15-48.